

# 前回の委員会で頂いた主なご意見と 対応方針について

—資料1—

# 前回のメンテナンス小委で頂いた主なご意見と対応方針(1)

## 【見える化の意義、大枠の議論の方向性について】

No.	意見	対応	発言委員
1	<p>どういう範囲のものをなぜ共有化するメリットがあるのか、もう少し整理する必要がある。</p> <p>どんなことをするにも労力がかかる。例えば、小規模な橋梁にも大規模な橋梁にも同じような情報を入れても無駄となってしまう。</p>	<p>【資料2 p.1】 「1. 情報の共有化・見える化を推進する意義」に、 情報の見える化、情報の共有化を推進する意義を記載。</p>	家田委員
2	<p>データベースについて、今すぐこういうものでないといけない、と決めようとすることに無理がある。例えば台帳の整備などから、もっと具体的な議論を行うべき。あまり初めから大袈裟に広げすぎるのはいかがなものか。</p>	<p>【資料2 p.6】 「5. 確実に実施すべき施策」 に、考え方を記載。</p>	福岡委員
3	<p>国が求める情報入力のフォーマットが、自治体にとっては大きな負担になることが考えられる。データベース化をする前に国・自治体のコンバータの仕組みを最初から考えることができないのか。</p> <p>入力作業などの仕事が増えると、本来やるべきことができなくなる。</p>	<p>【資料2 p.4】 「4. (4)①施設情報の階層化(レベル分け)」 に、考え方を記載。</p>	臼井委員
4	<p>国民・地域住民、政治家が日本のインフラの実情を理解しておくことが、インフラ行政の基本である。アメリカでは、インフラ通信簿という形でその精神が現れている。日本にはその精神はまだなく、一步ここで大きく踏み出すべき。</p>	<p>【資料2 p.3】 「4. (3)①施設の健全性等の集計情報の公表」 に、学術団体等が評価する取組に対し協力を実施する旨記載。</p>	家田委員

## 前回のメンテナンス小委で頂いた主なご意見と対応方針(2)

### 【データベースの整備・運用について】

No.	意見	対応	発言委員
1	現在の国交省におけるデータベースの運用状況がわかる資料を、次回委員会で提示してほしい。 あまりに全て細かい情報を住民に公表することに意味はあるのか。手間とのバランスを考慮する必要がある。	【資料4 p.4~8】 に、国交省におけるデータベースの運用状況を整理。	井出委員
2	データのレベルによってアクセス制限をかけることが必要。	【資料2 p.2】 「3. 今後の施策の方向性」 に、考え方を記載。	梶浦委員
3	見せすぎると良くないデータもあることから、アクセス権やデータの階層分けの議論が必要。		井出委員
4	住民の好意による情報提供を受ける場合は、適切なフィードバックが必要なため、全体のポータルサイトとは別の形の運用ができるようにすべき。	ご意見の主旨を踏まえ、提言に反映していく方向で検討。	臼井委員
5	官から民、民から官の双方向のデータベースの構築が必要。		梶浦委員
6	サイバーセキュリティを含めたデータベース運用という新しい業務についての民間資格を検討することも考えられる。		梶浦委員

## 前回のメンテナンス小委で頂いた主なご意見と対応方針(3)

No.	意見	対応	発言委員
7	CIMの議論もされているので、維持管理に関わるデータだけでなく、新設時、施工時の情報にもリンクして使えるような体系を考えられるとよい。	【資料2 p.5】 「4. (4)⑤施設の設計・施工等の情報との連携」 に、新設時の計画、設計、施工等の情報と連携を図る旨記載。	小澤委員
8	各主体がばらばらにデータベースを作成するとなかなか共有できないという問題があるため、標準化が必要。JACICの委員会にて検討されている、COBie(3次元プロダクトモデルを活用する仕組み)も活用できるのでは。	【資料2 p.3】 「4. (1)③社会資本情報の集約化・電子化」 に、二次利用可能な形で電子化する旨記載。	木下委員
9	データの標準化は、人間が見て共有できるレベルで止まっては効果が薄い。マシン トウ マシンで横串を刺すことができるレベルの標準化まで持って行かないと、本当の効果は出ない。	【資料2 p.6】 「5. 確実に実施すべき施策」 において、点検の実施状況などできるものから毎年度公表していく旨記載。	梶浦委員
10	実際に動かすに当たり、体制面でも金銭面でも現実的なレベルを考えることが必要。例えば、点検結果を随時更新するのではなく、年1回程度の更新とする等。		小澤委員
11	データベースは、サステイナブルなものであるべき。		甲斐委員